

第1章

高知市の概要

1. 自然等
2. 人口
3. 産業等
4. 財政

第1章 高知市の概要

1. 自然等

1) 位置

高知市は、東経 133 度 31 分 53 秒、北緯 33 度 33 分 32 秒にあり、四国南部のほぼ中央に位置しています。

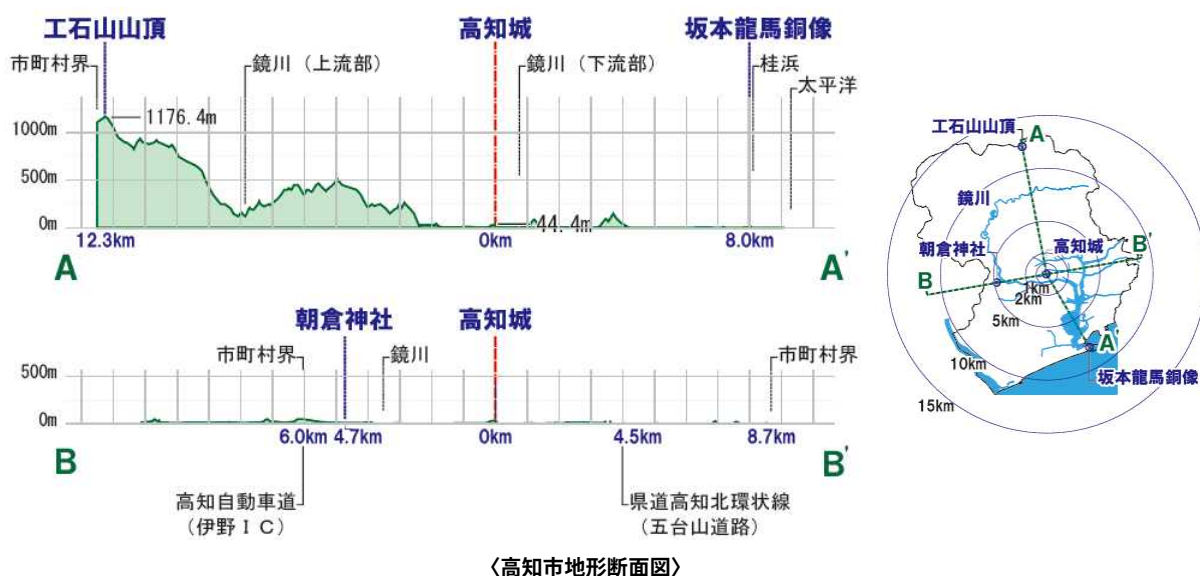
東西最長距離 21.49km、南北最長距離 24.83km で、市域面積は 309.22 km²を有します。



2) 地勢

高知市の南北方向は、北方には急峻な四国山地があり、その支峰である市域北部の北山に源を発する鏡川の下流域を中心に都市が形成されています。南方は浦戸湾を経て土佐湾に面し、東西に広がる海岸線から黒潮が流れる雄大な太平洋を一望できる地理的条件にあります。

一方、東西方向には、中央部に広く平地が分布するなど、比較的平坦な移動しやすい地形が続いています。



(出典：2011 高知市総合計画)

3) 気候

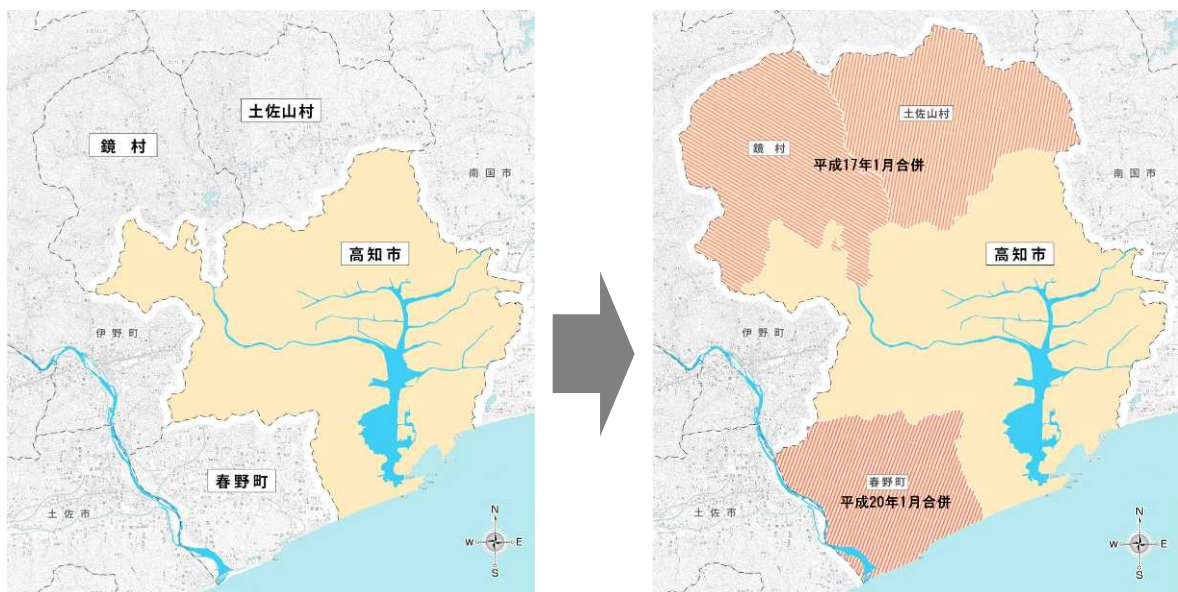
高知市は、平均気温が高く、年間 2,000 時間を超える全国有数の日照時間、年によっては 3,000 mm を超す世界的にも有数の降水量がある温暖多湿な気候となっており、植物の生育条件として重要な水、光及び気温に恵まれており、農作物などの生産に有利な気候条件にあります。

また、近年、二酸化炭素など温室効果ガスによる地球温暖化が進行し、異常気象や海面の上昇など、気候変動による影響が世界各地で顕在化しています。本市でも、平均気温の上昇や猛暑日・熱帯夜の日数の増加、さらには、真冬日の減少などが認められています。

4) 行政区域の状況

高知市は、「平成の大合併」により平成 17 年 1 月にみどり豊かな森林を持つ鏡村及び土佐山村と、平成 20 年 1 月に県内有数の農業生産高を誇る春野町との合併により、中山間地域、田園地域、都市部がバランスよく調和した新しい高知市となっています。

この合併により高知市の行政区域は、145 km² から 309 km² と約 2.1 倍に拡大しましたが、人口は 2 万人弱の増加にとどまっています。



〈市町村合併〉

(出典：新市まちづくり計画)

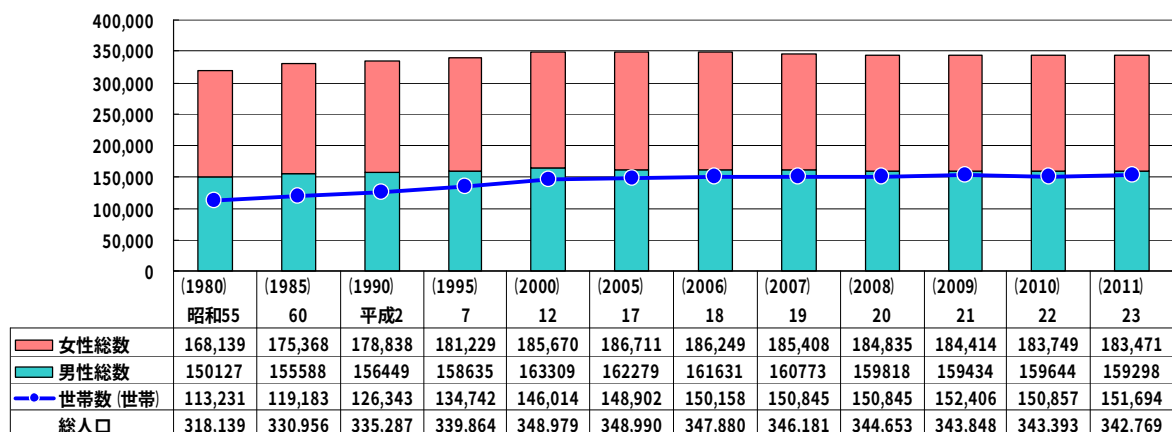
2. 人口

1) 人口の動向

高知市の総人口は、2005（平成 17）年までは増加傾向にありましたが、2006（平成 18）年以降は減少しており、2011（平成 23）年においては、342,769 人となっています。高知県との比較では、県の総人口の 4 割を超えて推移しており、年々その割合が上昇しています。

世帯数は増加傾向が続いていましたが、2010（平成 22）年において減少に転じており、総世帯数は 150,857 世帯で、1 世帯当たりの人員は 2.27 人となっています。全国の中核市と比較すると少ない状況となっています。

年齢 3 区分別人口比率の推移を見ると、年々、高齢化率が上昇する一方、若年層は減少しており、少子高齢化の進展が見られます。

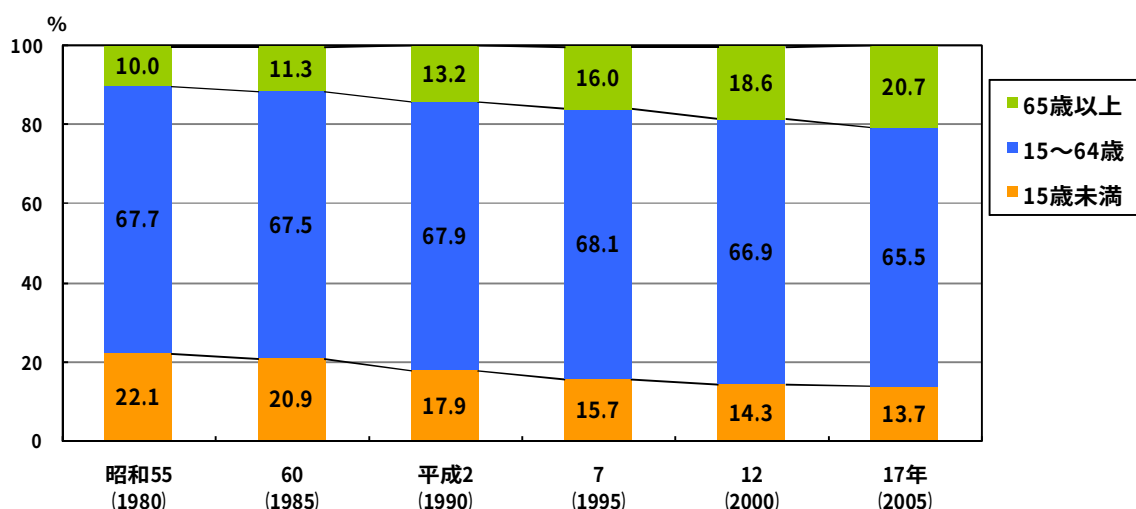


1980（昭和 55）年から 2005（平成 17）年まで及び 2010（平成 22）年は国勢調査人口

2006（平成 18）年から 2009（平成 21）年は高知市推計人口（各年 10 月 1 日現在）

〈高知市人口及び世帯数の推移〉

（出典：2011 高知市総合計画）



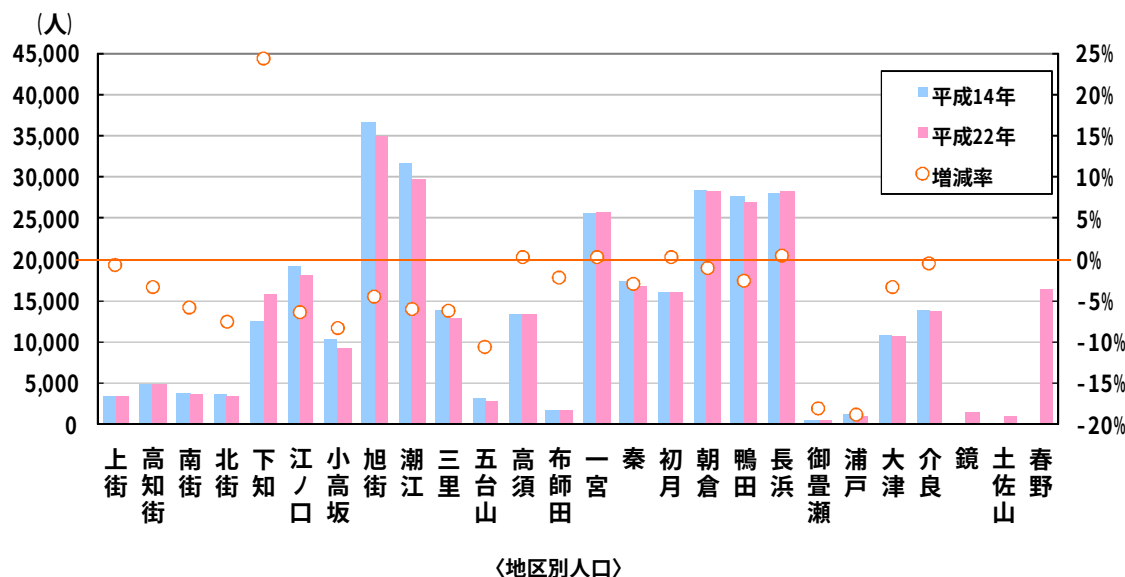
〈年齢 3 区分人口比率の推移〉

（出典：2011 高知市総合計画）

2) 人口の分布

地区別人口分布を見ると、高知市中心部より周辺部に人口が多いドーナツ化現象となっています。

平成14年と平成22年を比べると、高知市中心部付近において人口減少率が大きく、中心部の空洞化が進んでいる傾向が見られます。

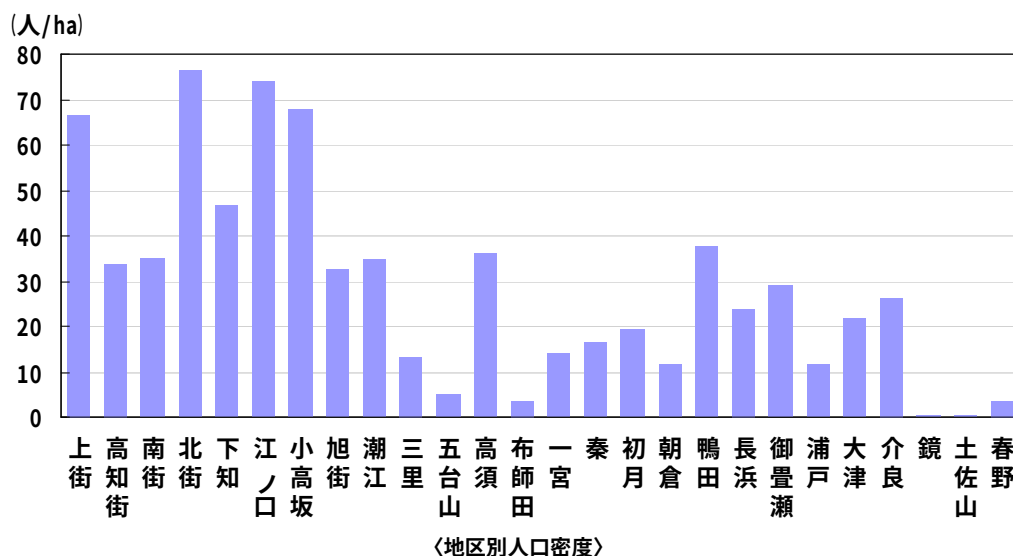


(出典：『H22 住民基本台帳』)

3) 人口密度

人口密度は、中心部に近づくほど高くなる状況となっています。

近年、合併した土佐山、鏡、春野は、他地域に比べると、人口密度が低く、広い地域に分散して居住している状況です。

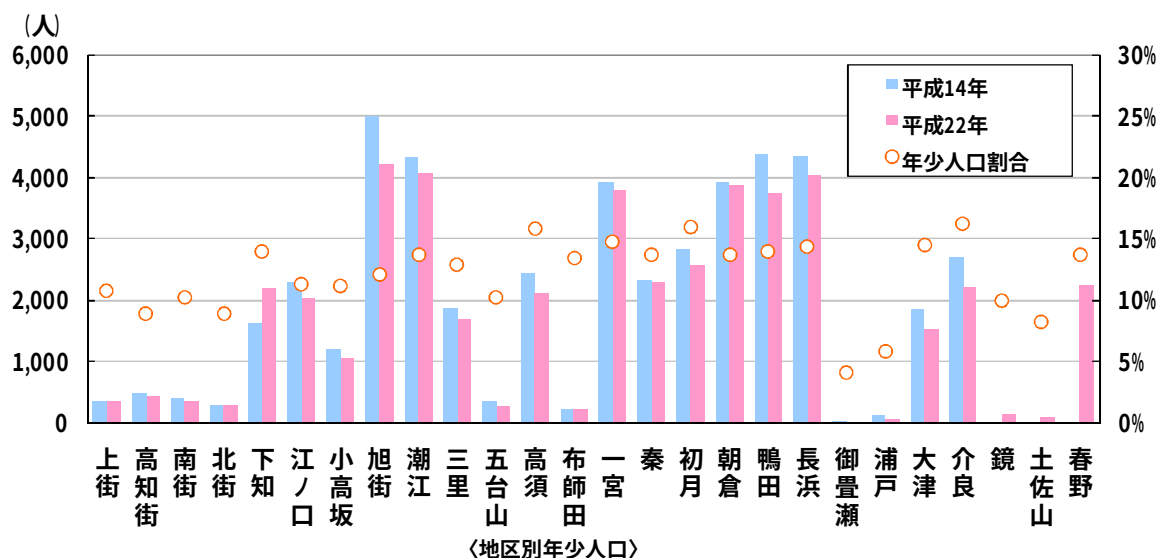


(出典：『H22 住民基本台帳』)

4) 年少人口

平成 22 年の年少人口は、高知市中心部及び土佐山、鏡の山間部で少なく、中心部周辺地区で多い状況です。

年少人口割合は、旧市街地及び土佐山、鏡の山間部で低く、15%を超える地区は、わずか3地区となっています。

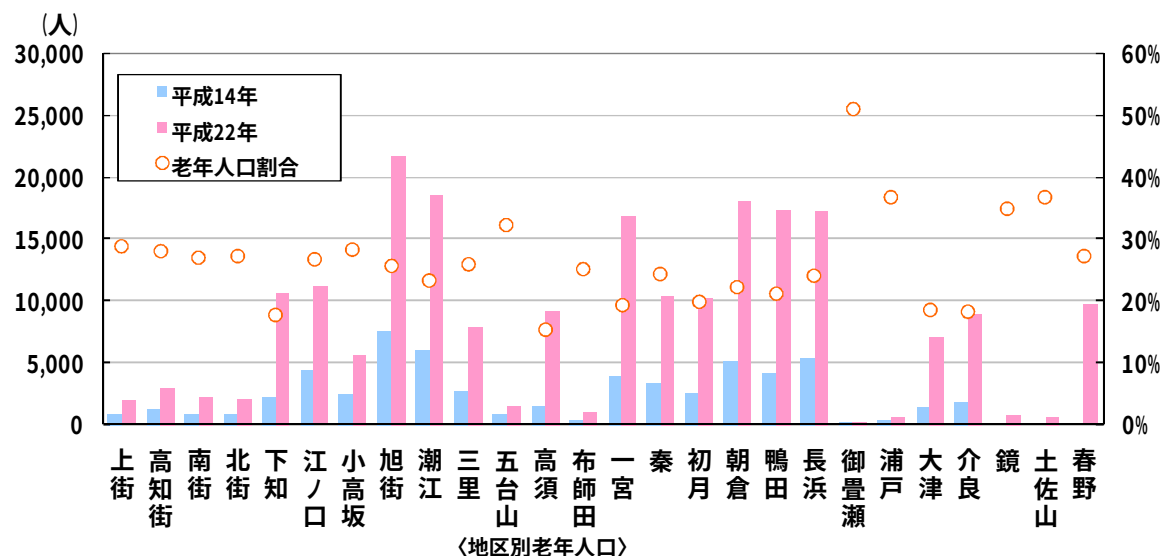


(出典：『H22 住民基本台帳』)

5) 老年人口

平成 22 年の老年人口は、高知市中心部及び土佐山、鏡の山間部で少なく、中心部周辺地区で多い状況です。

老年人口割合は、旧市街地、田園部や山間部で高く、特に土佐山と鏡の山間部などで30%を超える高い割合となっています。

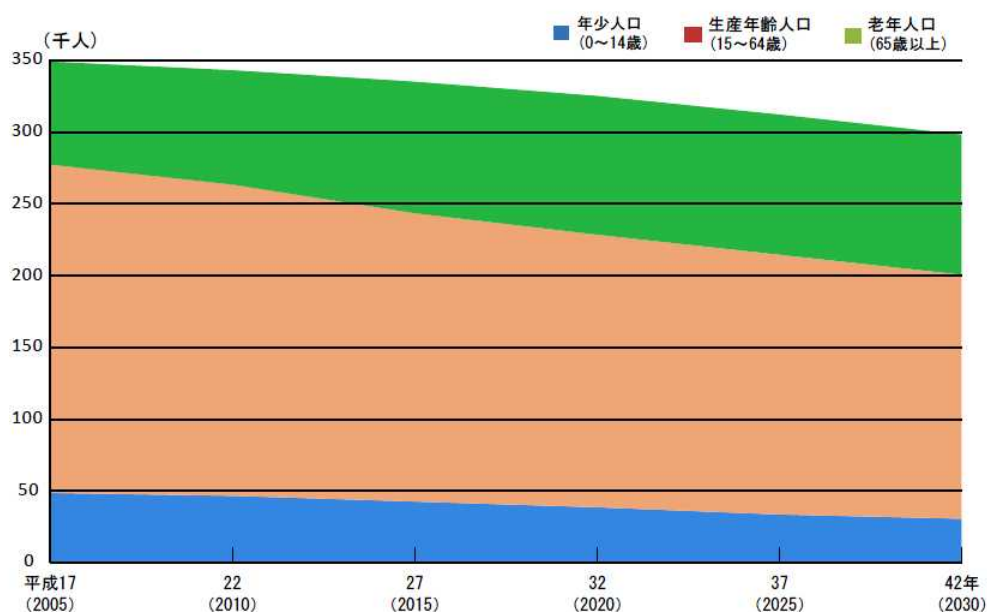


(出典：『H22 住民基本台帳』)

6) 人口予測

高知市の人口動態は、死亡数が出生数を上回る自然減少、転出が転入を上回る社会的な人口減少といった要因から、減少基調にあり、平成 17 年の 348,990 人から平成 42 年には 5 万人近くが減少し、約 30 万人になると推計されています。

また、人口の減少とともに、老年人口の増加、年少人口の減少は将来にわたって進行し、高齢化率は平成 17 年の 20.8%から、平成 42 年には 10%以上上昇して 32.9%と推計されており、3 人に 1 人が 65 歳以上の超高齢社会になると想定されています。



〈高知市の将来人口〉

〈出典：2011 高知市総合計画〉

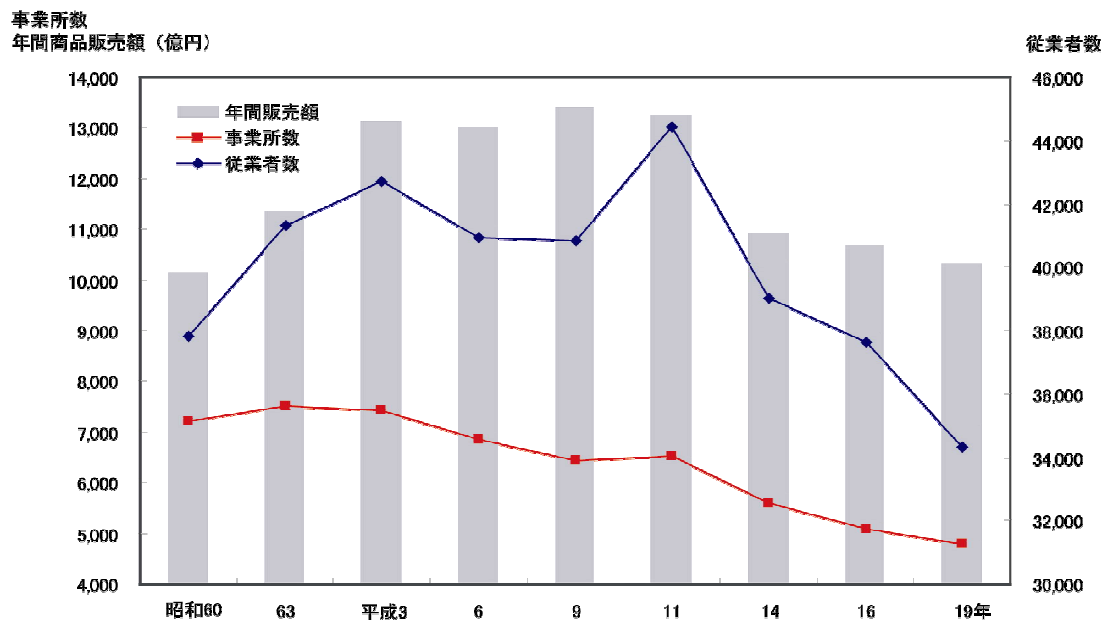
3. 産業等

1) 商業

高知市の商業は、平成 19 年 6 月に実施した商業統計調査結果によると、事業所数 4,770 事業所、従業員数 34,317 人、年間商品販売額 1,029,217 百万円と、平成 16 年 6 月実施の前回調査と比較して、それぞれ 3.3%、8.8%、3.2%の減となっており、平成 11 年からの減少傾向に歯止めがかかっていません。

卸売業と小売業に区分すると、全事業所数、従業員数ともに、小売業が全体の 7 割以上を占めており、その中でも「飲食料品小売業」が約 1/4 と最多となっています。年間商品販売額については、小売業は全体の 4 割弱にとどまっております。

また、小売業の年間商品販売額に特化してみると、高知市中心部付近は減少傾向にありますが、郊外部では増加しており、商業施設が郊外に広がっている傾向が見受けられます。



〈事業所数、従業員数、年間商品販売額の推移〉

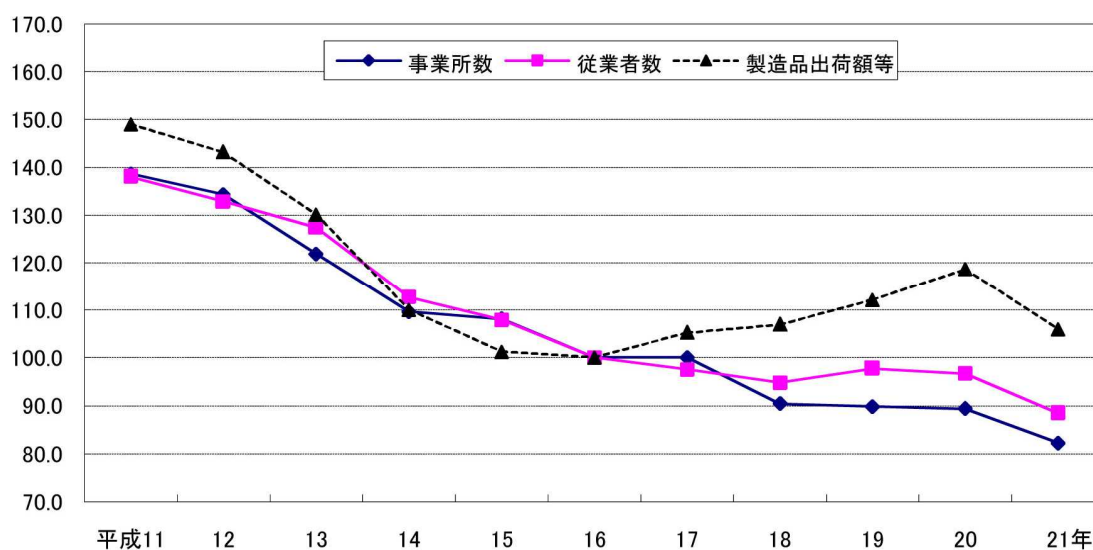
(出典：『高知市の商業-平成 19 年商業統計調査結果-』)

2) 工業

高知市の工業は、平成 21 年 12 月に実施した工業調査結果によると、事業所数、従業員数、製造品出荷額等とともに、年々減少する傾向にあります。平成 11 年と比較すると従業員 4 人以上の事業所数は、517 事業所から 324 事業所に、従業員数は 10,568 人から 7,238 人に、製造品出荷額等は、約 1,909 億円から約 1,447 億円に減少しています。

産業中分類からみると、事業所数、従業員数ともに「食料品」が最も多くなっており、製造品出荷額等については、「輸送用機械」が最も多くなっています。

指数(平成16年=100)



〈高知市の事業者数、従業者数、製造品出荷額等の推移（従業者 4 人以上）〉

(出典：『平成 21 年工業統計調査結果』)

3) 農業

高知市の気候は、南国土佐と称されるように黒潮の影響を受け比較的温暖で、日照時間が長く、降水量も多いことから古くから農業が盛んな土地です。

変化に富む地勢の高知市の農産物は、山間部から海岸部まで多岐にわたっており、全国的にその品質の高さを評価されているものも多くあります。

山間部では、ゆず・梅などの果樹栽培や棚田を利用した稲作も行われております。平野部では、中心部は、近郊農業の典型的な作物である軟弱野菜、西部の山沿いでは新高梨や酪農、東部は稲作と、それぞれの地域の特色を生かした農業が営まれております。海岸部では、施設園芸が盛んに営まれており、各種野菜の促成栽培や、近年ではグロリオサをはじめとした花卉栽培が有名です。



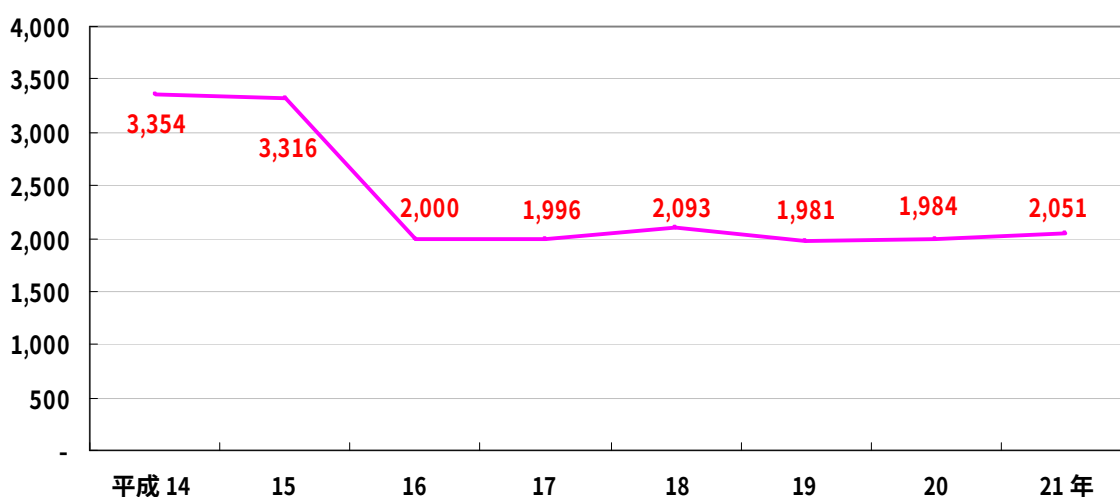
4) 観光

高知市は、慶長6年（1601年）の山内一豊の入府以来、土佐藩の城下町から発展した都市であるとともに、明治維新や自由民権運動に大きな役割を果たした人材を多く輩出しているため、「高知城」や「坂本龍馬や板垣退助のゆかりの地」など中心市街地内に観光資源が豊富に点在しています。

また、開設以来300年以上の歴史のある「街路市」や、高知で詠いつがれてきた歌と、南国の情熱・自由な気風がミックスされて生まれ、今や全国的に広がった「よさこい祭り」など文化的な資源も貴重な観光資源となっています。

近年の高知市の県外観光客数は、2百万人ほどで増減を繰り返しておりましたが、平成22年度はNHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送により、高知県が注目されたことや高速道路休日上限1,000円などの影響により、乗用車や観光バスの入込が増加し、全体として県外観光客の増加となっております。

観光客数(千人)



※ 平成16年から推計手法を変更

〈高知市の県外観光客数〉

(出典：『平成22年度高知市統計書』)

4. 財政

高知市では、脆弱な財政基盤の中、度重なる台風災害に対処するための浸水対策を中心に、1994（平成 6）年頃からは、土地区画整理事業、街路事業、文化・清掃施設建設などの基盤整備に重点的に取り組んできました。1983（昭和 58）年度に1億円余りの赤字を計上して以来、一般会計実質収支では黒字決算を保ってきましたが、この間の集中した公共事業で発行した起債の償還や社会保障経費の増大などによる歳出増と、国の三位一体改革による地方交付税の削減などにより、平成 25 年度までに抜本的な収支改善策を講じなければ、毎年度数十億円の財源不足が見込まれる状況となっています。



※一般会計、国体会計（合併団体発行分含む）の数値。

〈起債の借入額と元利返済額の推移〉

（出典：2011 高知市総合計画）